

オートバイのスポーツ性

Sports quality of motorbike

1K03B143-0 氏名 鳴尾淳

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 寒川恒夫 先生

1 研究の動機、目的

今日、日本でもモータースポーツという言葉は認知されている。しかし、「オートバイはスポーツか?」と問いかければ、即座に「スポーツである。」と回答をする人はおそらく少ない。スポーツというのは基本的に身体運動を伴うものである。それ故に、動力源をエンジン任せにしているオートバイなどは、一般的なスポーツと同類とは結びつけにくい。

しかし、私がオートバイに乗るようになってから、オートバイをするときには、四輪車とは異なる、スポーツをしているときのような清々しさや楽しさを感じるようになった。このような感覚をこの論文内ではスポーツ性と呼ぶことにしたが、このスポーツ性はオートバイのどこから由来する物なのか明らかにしたい。それがこの卒業研究の同期と目的である。

2 各章の要約

1章 モータースポーツの特異性

本章では、オートバイを始めとするモータースポーツの特異性と、モータースポーツのどこにスポーツ的要素があるのかということ明らかにすることを目的とした。

モータースポーツのマシンは、人間の体力では到底発生させることの出来ないほどのエネルギーとパワーを持つ。それは時に人間を死亡させるほどの危険性をもつ。そのような危険性をもつマシンを操るという行為自体がスポーツ的であるということが明らかになった。

2章 オートバイとスポーツの歴史

本章では、オートバイの発展とスポーツの歴史とともに、オートバイの原型となった自転車、そして自転車の原型である馬術の発展とスポーツの関係を明らかにしていくことを目的とした。

馬術、自転車共に、スポーツ目的で始まったものであり、その両者とも進歩の歴史は常にスポーツと関わりがあった。オートバイもまた、このスポーツ的観点を受け継ぎ、スポーツと共に進化した。

そして馬術、自転車、オートバイの発展の歴史はスピード獲得の歴史でもあった。オートバイにスポーツ性を与えている大きな要素の一つはスピードであるということが

明らかになった。

3章 オートバイの取り扱い時の運動

本章では、オートバイの取り扱い、運転時における運動によってオートバイにスポーツ性をもたらされるのかということ明らかにすることを目的とした。

速く走ることが出来るという性能自体にスポーツ性があるというのはオートバイも四輪車も同じである。しかし、走行時に積極的に全身を使った運動を行うという点がオートバイに四輪車を運転するとき以上のスポーツ性を与えている要因であるということが明らかになった。

4章 オートバイの特性とスポーツ性

本章では、オートバイの特性によりスポーツ性が生まれているのではないかとということ明らかにするために、四輪車とオートバイの比較を用いてオートバイのスポーツ性を探ることを目的とした。

オートバイは四輪車と比べて走行時の体感度の高さ、二輪車という特性上四輪車とは異なる走行性、趣味性の高さなどにより、四輪車よりもスポーツ性を感じやすいということが明らかになった。

5章 オートバイとスポーツ

本章では、1章から4章の内容を踏まえ、オートバイのスポーツ性とは一体何であるかということに結論を出すことを目的とした。

危険性をもつ大きなパワーを持ったマシンを操るという行為、高い速度で走ることが出来る性能、全身を使った操作、スピードの体感度の高さ、四輪と異なる走行性、趣味性の高さといった特徴がオートバイにスポーツ性を与えている。

そしてこれらの特性がライダーもたらずものは非日常の体験である。オートバイを運転する時の危険性、スピード感、全身運動は日常的には起こりえない体験であり、これがオートバイにスポーツ性を与えていると考えられる。

つまり結論は、オートバイのスポーツ性とは、非日常の体験である。このような結論に至った。